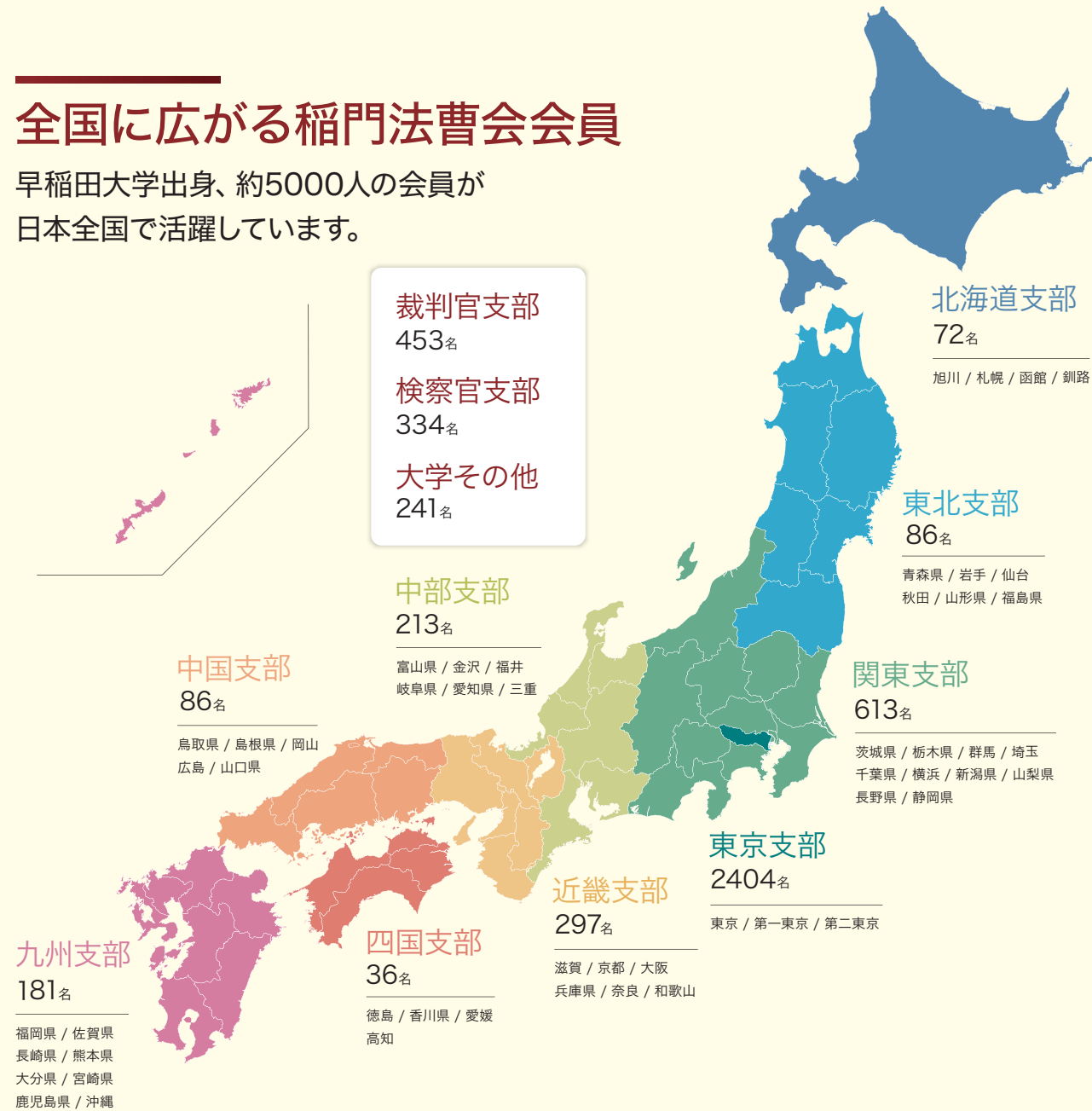


全国に広がる稲門法曹会会員

早稲田大学出身、約5000人の会員が
日本全国で活躍しています。



稲門法曹会 会報

2015.9
創刊
準備号



編集部だより



思い出の老舗洋食レストラン 高田牧舎

東京都新宿区戸塚町1-101 TEL:03-3202-2376

地下鉄東西線早稲田駅を降りて南門通り商店街を抜けた先、早稲田キャンパス南門の目の前に、高田牧舎は在り続けています。
時代の流れとともに店は改装され、ピザ釜やオープンテラスが設置されるなど、新しくなった部分もあります。
他方、昔から変わらないというカレーライスは、どこか懐かしい王道の欧風カレーであり、時代を超えて早大生や教授の皆様のお腹を満たし続けています。
早稲田大学の伝統と革新を見守り続け、自身もまたそれを体現する高田牧舎。会員の皆様も、昔の仲間と連れ立って、久しぶりに尋ねられてはいかがでしょうか。

編集部・平成26年度司法試験合格者 一色翔太



創刊準備号発刊にあたって

稲門法曹会会長 阪井 紘行

稲門法曹会は設立して本年で7年を迎えました。
その間、会員の皆様からの暖かいご支援とご協力により会活動も徐々にではありますが充実して参りました。未だ準備号の段階ですが、此の度会と会員を結ぶ情報誌を発刊する運びに至りましたのもその一環です。
石田眞先生を中心に次代を担う若い事務局の皆さんが実に精力的にそして澁刺と会活動に取り組んでくれている姿を目にするにつけ、会の前途は洋々であると思います。
これからも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。創刊のご挨拶と致します。

創刊に向け、 会報タイトル募集!

稲門法曹会会報の創刊にあたり、会報のタイトルを募集致します。
下記編集部メールアドレスまで、奮ってご応募ください。
tohmon-jimu@list.waseda.jp

早稲田卒業生よ 誇りを持って先輩達に続け

鎌田 薫 (かまた かおる)

1970年早稲田大学法学部卒業、同大学院法学研究科博士後期課程を経て、1976年に法学部専任講師、1978年に
助教授、1983年に同教授、2004年に大学院法務研究科教授、2009年に法学学術院教授。法学部教務主任(学生
担当)、法務研究科長などを歴任し、2010年11月に第16代早稲田大学総長に就任。66歳。



稲門法曹会会報の創刊準備号にあたり、稲門法曹会を全国規模で再編成した際の法務研究科長であり、立役者である鎌田先生にお話を伺いました。

まずは、六大学野球春季リーグ優勝おめでとうございます。
ありがとう。提灯行列で会えるかと思ったけど会えませんでしたね。

この度稲門法曹会で会報を出すことになりました。
これまで会報がなかったことに驚きました。作るなら全面的に協力しますよ。

それでは早速本題に入らせていただきますが、早稲田大学の総長職も二期目の任期に入りました。この5年間、手応えはいかがですか。
もう、くたびれたよ・・・というのは冗談ですが(笑)。

この5年間、ちょうど大学教育全体が大きな改革の中にありました。社会情勢も厳しく変化する中で、教育の中身を変える改革において、早稲田は一つのモデルを示すことができたのではないかと思います。その時期に立ち会えたことは幸せなことだと感じています。

そうした動きの中には、OB組織や地域を巻き込んで大学を再定義しようという動きがあるように思うのですが、そのあたりはどうでしょう。

おっしゃる通りです。様々な側面で本学OBと関係性の強化を推進しています。そもそも早稲田大学は建学の理念として、実学を学部段階から学び、社会に寄与するということを目指した大学でした。昔の学生は放っておいても勝手に社会と交わっていましたよね。

そうですね、一方で授業の出席率はいまいちでしたが・・・笑

そう。出席率の点はともかく、勝手に社会と交わっていくのは早稲田生の良いところだったのですが、いまの学生はある程度こちらで機会を提供してあげないといけない状況になっています。そんな中、インターンやボランティア、プロフェッショナルズワークショップという新しい試みも始まっていて、広い意味での経験教育を全学的に強化しています。

早稲田大学は社会的に高く評価されているけれど、それは卒業生がいろいろな分野の第一線で活躍されているからこそ。ただ、今

までは大学の教育や運営に卒業生の皆さんの経験を十分には活かせてきたとは言えません。卒業生が大学で経験を語ってくれるだけでも刺激になると思います。



体験型の教育という意味では、ロースクールでは設立当初から臨床法学教育やエクスターンなど取り組んでいますよね。

そうです。極めて重要なことです。いまでは全学的に実務と交わる教育に取り組んでいますので、ロースクールの臨床法学教育はその意味では先端をいっていたと言えるかも知れません。

稲門法曹会設立の経緯を教えてください。

もともと地域限定的な稲門会はあったのですが、現在の形になったのはロースクール設立がきっかけでした。理論と実務の架橋という以上、本学出身の多彩で層の厚い法曹の方々との関係性を強めていかなければならない、という法務研究科側の事情があったのも確かです。しかしそれだけでなく、学部は本学出身だけれども、他のロースクールに進学した人もまた稲門法曹に違いはないのですから、疎遠になってしまうのは寂しい、ということで、ロースクールだけでなく稲門法曹全体のOB・OG会組織として、2008年11月に全国規模に再編成しました。早稲田の先輩方が、新人法曹を各地であたたかく迎えるような全国組織を作りたいかったんです。

早稲田のOBはまとまりがないとよく言われますが・・・(笑)

そうですね。これは昔から良く言われる話です。教員の世界にはこんな笑い話があります。「早稲田出身の教員は採用しやすい。なぜか。各人各様で群れないから。これがOB会組織の強い某大学出身の教員を1人採用すると、仲間を引き込んで気づくと10人になって

いる。早稲田出身は群れないから安心して採れる」と(笑)。
これもかつては一つの味だったのかもしれませんが、それはそれとしても、親睦の基盤は必要ではないかと思います。

各自がそれぞれ行きたい道を行くという早稲田気質もあり、稲門会作りはうまくいかないことも多いようです。そうした中で、稲門法曹会はなぜうまくいったのでしょうか。

地域の中核となる実力と人望のある先生方を最初の段階でかなりの程度巻き込んだことが一つ大きな要因だと思います。前会長である平山先生、現会長の阪井先生をはじめ副会長や常任理事を引き受けていただいた先生方のご尽力は相当なものですし、また、実働部隊としてロースクール出身の若手たちの活躍が会の運営を支えたのも大きな要因ですね。

今後の稲門会運営にあたって、参考となる稲門会はありますか？

そうですね、ファイナンス稲門会は活発に活動しているようです。ファイナンス研究科は合併してしまいましたが、専門職大学院が存在するという意味で稲門法曹会とは共通しています。活発に活動している稲門会の特徴としては、単に親睦の機会を持つというだけではなく、共通の目的をもち、若い人が関連に参加できるようにする、このあたりが重要ではないかと思います。

今後の稲門法曹会に望むことは何ですか

設立時に目標とされたように全国規模でつながり、それぞれの力をよりよく発揮できるような組織になってもらえればと思います。新人法曹が早稲田の一員であることによって自分の能力を存分に伸ばし、またもっと上の期の会員は大学のリカレント教育等を利用できるような循環が常に回っている形になればいいと思います。また、学部卒で外へ行ってしまった人も積極的に迎え入れたいですね。

稲門法曹会に参加することで、早稲田出身であることを誇りに思ってもらえるような組織になってほしいと思います。

なるほど、率直なお答えありがとうございました。総長職は激務と思いますが、法学部出身の総長として是非、頑張ってください。秋のリーグ優勝と箱根駅伝も期待しています。



稲門法曹会・早稲田大学 今後の主なスケジュール

2015年

9月	8日(火)	司法試験合格発表
10月	18日(日) 24日(土)	稲門祭(無料法律相談を実施予定) 稲門法曹会 総会・懇親会(合格祝賀会)
11月	7日(土)・8日(日) 上旬 下旬	早稲田祭 早慶戦(秋季東京六大学野球) ラグビー早慶戦
12月	上旬	ラグビー早明戦

2016年

1月	2日(土)・3日(日)	箱根駅伝
3月	下旬	卒業式
4月	上旬 中旬	入学式 早慶レガッタ
5月	中旬 下旬	司法試験 早慶戦(春季東京六大学野球)
6月	上旬 上旬	稲門法曹会 常任理事会 司法試験短答式成績発表

法学部・法務研究科だより

法学部では、2005年に12階建てに改築された8号館にて、3500名あまりの学生(男子学生約2300名、女子学生約1200名)が学んでいます。近代化した8号館の建物と教室、多種多様な選択科目の設置、女子学生の増加など、昔の法学部を知る皆様にとっては雰囲気がいま変わって感じられることでしょう。もっとも、法学部の卒業生は、法曹を目指す者(法科大学院への進学)をはじめとして、民間企業や国家公務員・地方公務員への就職、他分野の大学院への進学など、昔と変わらず幅広い分野に進んでいます。

法務研究科(法科大学院)では、「挑戦する法曹」をスローガンに、530名あまりの学生(男子学生約370名、女子学生約160名)が法曹を目指して日々の学修に励んでいます。法務研究科の教室や24時間開室の自習室が備わっている27号館は、「小野梓記念館」とも呼ばれ、かつての第一学生会館の跡地に建てられています。この27号館で学んだ学生から、これまでに1160名あまりが司法試験に合格しており、昨年度は合格者数(172名)が全国1位になりました。法務研究科からは着々と、稲門法曹が羽ばたいています。

法学部と法務研究科は、教職員一丸となって、一人でも多くの魅力ある稲門法曹を送り出すべく、改革を続けています。稲門法曹の皆様には、これまで以上のご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

法務研究科教授 学生担当教務主任 秋山靖浩